

桜環境新聞

夏休みはエコ体験!!

サマースクール2023

まもなくやってくる夏休み。今年の「桜環境センターのサマースクール」は、身近な自然や環境、エネルギーを体験して学べる6講座を開催します。

《7月23日(日)》

●危険生物?ハチの対処法
〜こども編〜
ハチにあった時や刺された時の対処法などを、座学とジオトープで学びます。

《7月30日(日)》

●顕微鏡で観察!
親子下水道教室
家庭と環境との水のつながりを知り、微生物を顕微鏡で観察します。

《8月5日(土)》

●プチプチで作る
ぷちエコバッグ
気泡緩衝材を使って、エコなバッグを作ります。

《8月17日(木)》

●木と自然の話と
ミニ本棚作り
木と自然の話ののち、埼玉県産のヒノキ材でミニ本棚を作ります。

《8月25日(日)》

●黄色いガス管のひみつ〜ガス管で万華鏡作り〜
都市ガスが家に届くまでの流れを学び、ガス管を使った万華鏡を作ります。

《8月31日(土)》

●申込:7月7日(金)10時〜13日(木)に、直接来館か電話(048-710-5345)にて(先着順)。
●対象、定員、料金など詳細はこちら。



桜環境センターのサマースクール 2023
知ってつくってエコ体験

LEDのエネルギーキット 《7/30》
ミニ本棚 《8/17》



夏休み
エコマーケット
7月30日(日)13〜16時
市民の方から受け入れた衣類や子ども用品などを無料で持ち帰れる「夏休みエコマーケット」を開催します(さいたま市限定)。
「おせっかい倉庫フードパントリー浦和西」の協力のもと、もう使わないけれどもまだ使えるものを次に引き継ぐ「リユース」を体験できるイベントです。
当日は住所の分かるもの、エコバッグをお持ちください。
詳細はこちら。

半夏生
はんげしよず
【7月2〜6日頃】
半夏(カラスビシャク)の別名が生え始める時期。日本の暦「雑節」のひとつでもあり、この頃までに田植えを終えていないといけなしいといわれています。
6月上旬に田植えを終えたシーオは、カエルやトンボなどで賑わっています。

さいたま市
桜環境センター
〒338-0834
埼玉県さいたま市桜区新聞4-2-1
(月曜休館)
【環境啓発施設】
Tel:048-710-5345
【余熱体験施設】
Tel:048-710-5344
【施設見学・持込・その他】
Tel:048-710-6010
【ホームページ】
https://sakura-kc.saitama.jp/

環境啓発施設 公式SNSアカウント
Facebook
Instagram
環境啓発施設 E-mail
sakura@com-sup.com

LINE
公式アカウント
お友達募集中!
友達登録で3Rイベント、ごみの正しい出し方などの最新情報をお届けします。

3Rマーケット受け入れ
募集
① 7月21日(金)、22日(土)
② 8月18日(金)、19日(土)
詳細はこちら
さいたま市在住の方、1人30点まで。
電話【048-710-5345】で予約してからお越しください。
電話予約受付期間 ① 7月14日(金)〜20日(木)
② 8月8日(火)〜11日(金・祝)

「シーオ」の田んぼで

出会う生き物



田植えの様子

6月4日(日)、シーオそだて隊のイベントで、ビオトープ「シーオ」の田んぼにイネの苗を植えました。イネの成長に伴い、田んぼで出会える生きものも変化します。6月は様々な生きものがこどもからおとなへ大変身の真っ最中！池では、オオアオイトト



オオアオイトトトンボの羽化

ンボの羽化が始まりました。ヤゴが水草にのぼって殻を脱ぎ変身。からだがある程度硬くなると暗めの林に移動し、メタリックグリーンに変化します。池や田んぼにいるオタマジャクシの何匹かには後ろ足が出てきました。この後、前足が出て、尾が短くなり、

大きな口へと変わってカエルの姿に見られるのは7月くらいまで。この機会にじっくりと観察してみてください。

7月9日(日) 10~11時には、シーオそだて隊「セイヤカアワダチソウを抜いちゃおう！」(当日先着20名)を、8月24日(木) 13時半~15時には、シーオの管理作業を体験し、活動を支える「シーオささえ隊」の説明会を開催します。詳細はこちら。



シーオそだて隊



シーオささえ隊

桜環境センターの利用団体紹介

おせっかい倉庫 フードパントリー 浦和西

始まりは小規模から

おせっかい倉庫フードパントリー浦和西では、月1回程度、さいたま市南区と桜区で、市民や企業などから提供された食料品などを登録した世帯にお渡しする「フードパントリー」を開催しています。2020年、代表の鈴木弘子さんがパントリーを始めた当初は5人ほどのボランティアで、利用者は



13世帯。それが今では50世帯、ボランティアは20人を超えるまでになりました。

地域で開催できる環境を

市内には今、13の子育て

応援フードパントリーがあり

ますが、桜区と緑区には

まだありません(2023

年6月現在)。各区にひとつのフードパントリーがあれば、顔が見える関係で必

ずランティアも不足している

ので、月に1回でも手伝っ

てくれる人がいたらありが

たいそうです。

要な人に届けられます。鈴木さんたちは、「さいたま市フードパントリー連絡会」を立ち上げて行政に協力を依頼するなど、横のつながりも強めています。立ち上げのノウハウもあり、必要があればアドバイザーの派遣もできるので、同志からの連絡をお待ちしています。車を持つ配送ボ

ランティアも不足している

ので、月に1回でも手伝っ

てくれる人がいたらありが

たいそうです。



おせっかい倉庫フードパントリー浦和西をより詳しく紹介しているHPはこちら。

知っているようで知らない 番外編 【ごみの正しい出し方】

発火の危険



4月、桜環境センターのリサイクルセンターでアルミ選別機の火災が起きました。「もえないごみ」に混ざっていたリチウムイオン電池が発火したものです。

リチウムイオン電池のほかに、スプレーかんがもえないごみに混ざっている場合も発火の原因になります。ごみ処理施設で火災が発生すると、長期にわたりごみの受け入れができなくなる恐れがあります。



スプレーは使い切って
透明な袋に入れて出す

スプレーかんをごみに出す際は、中身を使い切り「有害危険ごみ」の日にスプレーかんだけを透明な袋に入れます。中身が残る場合は、袋に「中身あり」と書いた張り紙をつけてください。

ご自身で穴あけをすると爆発の危険がありますので、絶対に行わないでください。



どうしても中身の残ってしまった
スプレーかんは紙を張る